

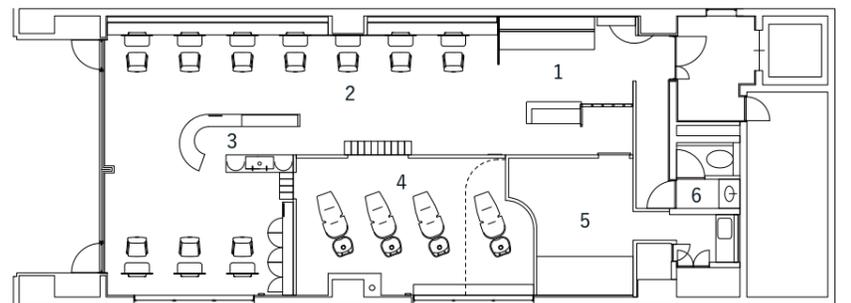


街への風景を遮らないワンルーム。無駄なものを配さず、潔さと職人仕事を感じられるアトリアのような空間に、情報発信の場となるギャラリースペースがレイヤードされたサロン。

## ヘアサロンB “アトリエ”と“サロン”

大通りエリアの雑居ビルの2階にある美容室。目指したのは以下の2点。

- 1, 確かな技術を持った美容師=職人たちの創作の舞台となる“アトリエ”であること
  - 2, 札幌を拠点に活躍するアーティスト、デザイナー、セレクトショップによる文化的な発信・交流の場=“サロン”であること
- セット面を空間の長手方向に、既存の壁より500mmセットバックして並べ、その背後を明るい展示スペースとした。展示スペースは、セット面を照らす面光源であり、セット面どうしのバッファーとしても働く。バックヤードに納められることの多い調色スペースはU字型のカウンターとして表舞台に表現した。このため、作業中の美容師が、常にゲストへ目を配れるようになっている。シャンプースペースは、視線を制御するために斜めのカットされた壁に囲われる。この氷山のようなボリュームがワンルームを心地よく分節する。わずかにトーンの異なる白からライトグレーによって繊細にレイヤーを構成することで、“アトリエ”と“サロン”の世界を共存させている。



1,待合 2,施術スペース 3,調色スペース 4,シャンプースペース 5,スタッフルーム 6,手洗い 平面図 S=1/200



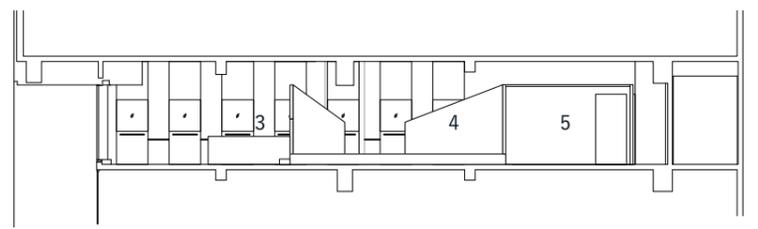
施術スペースからシャンプースペース越しに待合をみる。



薄いセット面の合間より覗くギャラリースペース。本や絵、写真などが飾られる。



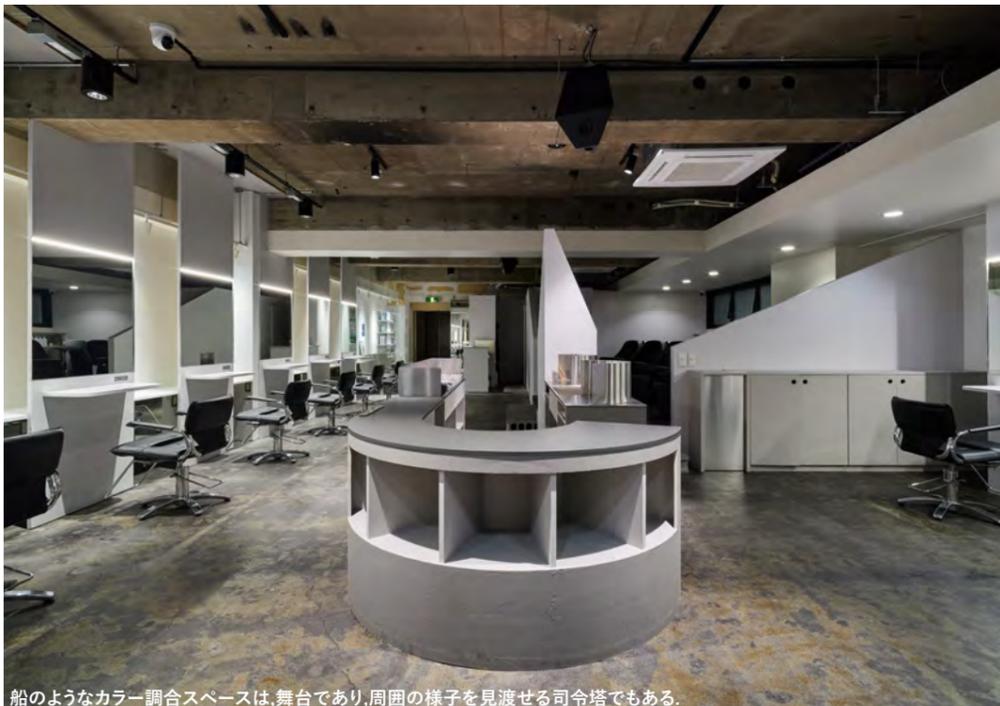
待合スペースと施術スペース。背面の鏡は元ダンス教室の鏡貼りを流用した。



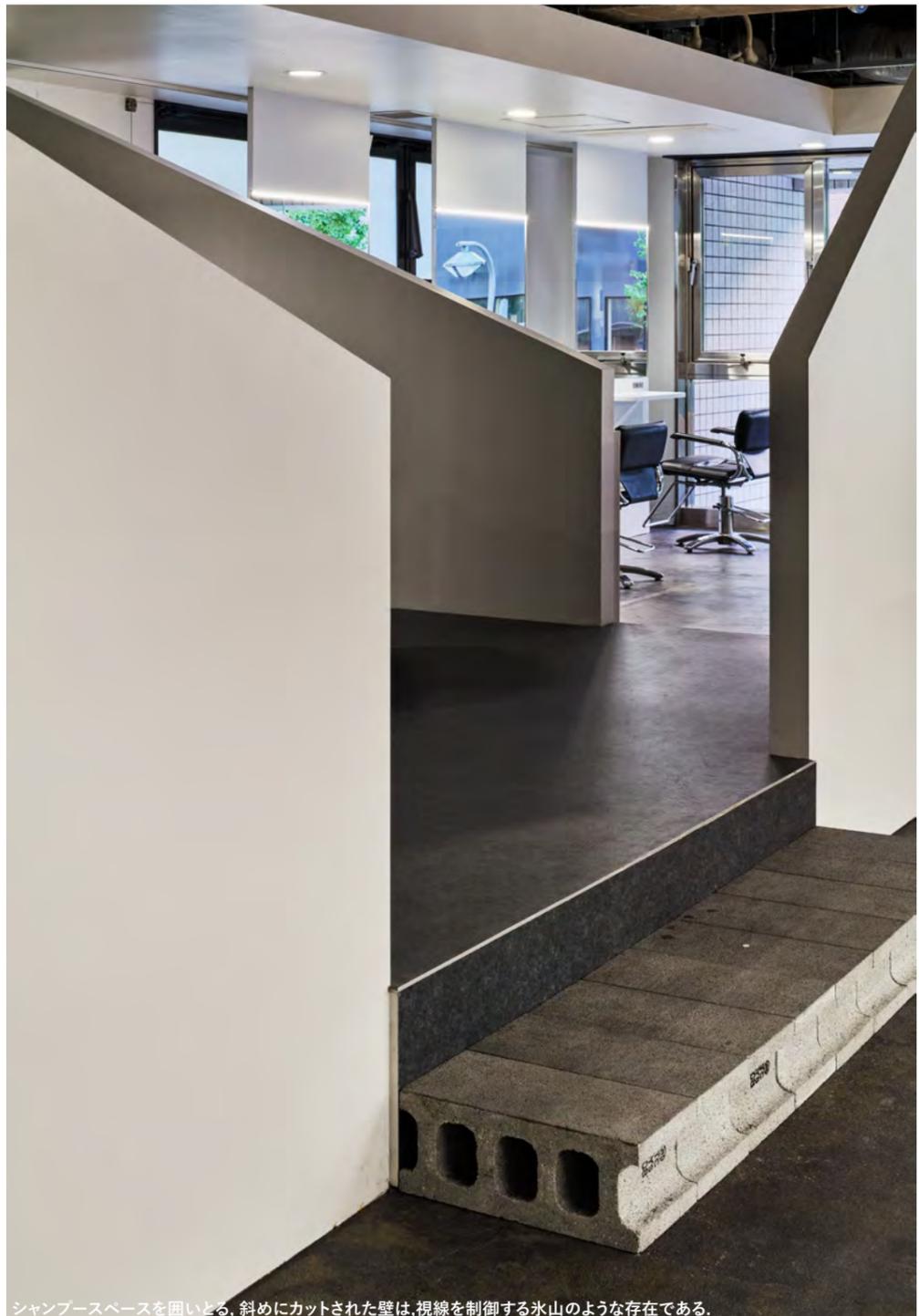
断面図 S=1/200



調色スペース越しにセット面をみる。カラー剤の飛散防止の衝立やカラー剤収納棚はアルミ造作。



船のようなカラー調色スペースは、舞台であり、周囲の様子を見渡せる司令塔でもある。



シャンプースペースを囲いどる、斜めにカットされた壁は、視線を制御する氷山のような存在である。